

## バリアフリー整備・徴収計画

鉄軌道事業者名	西武鉄道株式会社
---------	----------

整備方針	
全期間	・ホームドアを62番線に整備 ・運行情報提供設備を60駅に整備 ・内方線付点状ブロック整備、ホーム車両間段差隙間解消、車両フリースペース整備等を推進
2021～2025年度	・ホームドアを17番線に整備 ・運行情報提供設備を22駅に整備 ・内方線付点状ブロック整備、ホーム車両間段差隙間解消、車両フリースペース整備等を推進
2026～2030年度	・ホームドアを45番線に整備 ・運行情報提供設備を39駅※に整備（2021～2025年度整備駅との重複含む） ・内方線付点状ブロック整備、ホーム車両間段差隙間解消、車両フリースペース整備等を推進

料金額				
券種	定期外		定期券	
	普通券 (磁気券)	普通券 (IC)	通勤定期券	通学定期券
設定額 (円)	10	10	※1	0
年間徴収額 (百万円)	2,341 ※2		2,571	0
料金徴収 対象駅	全92駅			
備考	※1：1ヵ月600円、3ヵ月1,710円、6ヵ月3,240円 ※2：上記券種のほか、各種回数券、団体乗車券、貸切乗車券、企画乗車券、 各種特殊割引乗車券を含む			

※普通券の設定額については、大人1乗車当たりの料金を記載すること。

※定期券の設定額については、全ての定期券料金から算出した1乗車当たりの平均額を記載し、備考欄に各期間別（1ヵ月・3ヵ月・6ヵ月など）の料金を記載すること。

※回数券や企画乗車券などの券種から徴収する場合は、備考欄に該当する券種名を記載するとともに、定期外の年間徴収額に該当する券種からの年間徴収額も含めて記載すること。

年間徴収額	4,912 百万円
徴収期間	8 年間（2023.3～2031.3）
総徴収額	39,296 百万円
総整備費	55,700 百万円
	2021～2025年度の計画： 15,521 百万円
	2026～2030年度の計画： 40,179 百万円

## バリアフリー整備・徴収計画（計画期間：2021.4～2026.3）

整備内容		
(1) 設置・改良費（附帯費用含む）		
設備名	整備数	整備費
ホームドア	6 駅 ※1      17 番線 ※1	8,435 百万円 ※2
スロープ	1 駅      1 ヶ所	50 百万円
内方線付点状ブロック	3 駅      6 番線	135 百万円
段差隙間縮小に資する設備	3 駅      6 番線	420 百万円
運行情報提供設備	22 駅 ※3	712 百万円
車両のフリースペース	2 編成      10 両	60 百万円
その他	1 駅 ※4	3 百万円
備考	※1：ホームドア新設駅数および番線数を記載（一部番線整備済で未整備番線へ整備する駅を含む） ※2：既設ホームドア改良費および定位置停止装置整備費（地上整備・車両改修）を含む ※3：一部改札口整備済で未整備改札口へ整備する駅を含む ※4：その他：視覚障がい者用設備（触知案内板・音声案内等）	
(2) 更新費（附帯費用含む）		
① 設備更新		
設備名	整備数	整備費
エレベーター	各 駅      9 基	450 百万円
エスカレーター	各 駅      29 基	1,450 百万円
その他	各 駅 ※5	901 百万円
備考	※5：その他：運行情報提供設備（行先表示器含む）	
② 車両更新		
路線名	整備数	整備費
(3) 維持管理費・収受システム改修費・その他費用（駅務機器改修費・駅頭表示改修費など）		
維持管理費（附帯費用含む）	2,399 百万円	※6
収受システム改修費	6 百万円	
その他費用 （駅務機器改修費・駅頭表示改修費など）	500 百万円	
備考	※6：ホームドア、エレベーター、エスカレーター、運行情報提供設備（行先表示器含む）等	

※整備数：計画期間内に供用開始する設備の数

※整備費：計画期間内に整備する設備の費用（計画期間内に供用開始しない設備の費用も含む）

計画期間内の整備費（(1)～(3)の合計）	15,521 百万円
-----------------------	------------

計画期間内の料金徴収によるホームドア設置番線数・段差解消駅数		
ホームドア設置番線数	17	番線
段差解消駅数	一経路確保駅	1 駅
	二経路以上確保駅	0 駅

## バリアフリー整備・徴収計画（計画期間：2026.4～2031.3）

整備内容		
(1) 設置・改良費（附帯費用含む）		
設備名	整備数	整備費
ホームドア	19 駅 ※1                      45 番線 ※1	27,745 百万円 ※2
内方線付点状ブロック	1 駅                                      2 番線	25 百万円
段差隙間縮小に資する設備	6 駅                                      17 番線	1,190 百万円
運行情報提供設備	39 駅 ※3	270 百万円
車両のフリースペース	14 編成                                      70 両	315 百万円
その他	9 駅 ※4	27 百万円
備考	※1：ホームドア新設駅数および番線数を記載（一部番線整備済で未整備番線へ整備する駅を含む） ※2：既設ホームドア改良費および定位置停止装置整備費（地上整備・車両改修）を含む ※3：一部改札口整備済で未整備改札口へ整備する駅を含む ※4：その他：視覚障がい者用設備（触知案内板・音声案内等）	
(2) 更新費（附帯費用含む）		
① 設備更新		
設備名	整備数	整備費
エレベーター	各 駅                                      31 基	1,550 百万円
エスカレーター	各 駅                                      43 基	2,150 百万円
その他	各 駅 ※5	1,062 百万円
備考	※5：その他：運行情報提供設備（行先表示器含む）	
② 車両更新		
路線名	整備数	整備費
(3) 維持管理費・収受システム改修費・その他費用（駅務機器改修費・駅頭表示改修費など）		
維持管理費（附帯費用含む）	5,841 百万円	※6
収受システム改修費	4 百万円	※7
その他費用 （駅務機器改修費・駅頭表示改修費など）	0 百万円	※7
備考	※6：ホームドア、エレベーター、エスカレーター、運行情報提供設備（行先表示器含む）等 ※7：2031年度以降の本制度活用は未定なため、本制度終了時に必要となる収受システム改修費 及びその他費用は、本様式には計上していない	

※整備数：計画期間内に供用開始する設備の数

※整備費：計画期間内に整備する設備の費用（計画期間内に供用開始しない設備の費用も含む。）

計画期間内の整備費（（1）～（3）の合計）	40,179 百万円
-----------------------	------------

計画期間内の料金徴収によるホームドア設置番線数・段差解消駅数		
ホームドア設置番線数	45	番線
段差解消駅数	一経路確保駅	0 駅
	二経路以上確保駅	0 駅